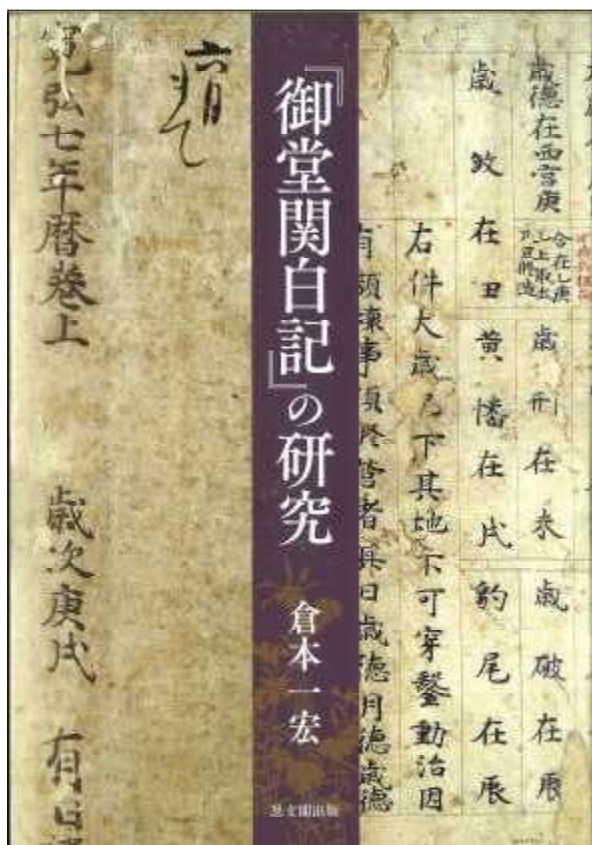




道長は紙背に何を書いたのか。そもそもなぜ紙背に文字を書くのか――

自筆本と写本の様々な差異はいかに生じるのか――

藤原道長の日記『御堂関白記』について、長年、先駆的な研究を深めてきた著者による、論文（新作を含む）からエッセイまでを蒐めたアンソロジー。

撰関期古記録における『御堂関白記』、特に自筆本と古写本の特徴を抽出し、その座標を確立することにより、『御堂関白記』研究のみならず、古記録研究そのもの、また撰関政治論や王朝文化論に資する学界待望の成果。

『御堂関白記』の研究

倉本一宏著

2018年11月刊行

A5判上製・388頁

定価:本体 8,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1957-5

目次

序論 藤原道長と『御堂関白記』

一 『御堂関白記』自筆本をめぐって

1. 『御堂関白記』の裏書
2. 『御堂関白記』自筆本の文字の抹消
3. 『御堂関白記』自筆本寛弘五年秋冬巻の裏に写された『後深心院関白記』抜書

二 『御堂関白記』の書写

1. 『御堂関白記』古写本の書写
2. 『御堂関白記』の仮名
3. 『御堂関白記』古写本・寛仁元年九月卅日条と十月一日条の書写順序をめぐって
4. 平松本『御堂関白記』と『御堂御記抄』

三 『御堂関白記』の内容

1. 「内府悦気有り」
2. 寛弘五年七月の彰子土御門第退下をめぐって
3. 『御堂関白記』に見える「女方」
4. 『御堂関白記』の「妻」と「妾」について

四 『御堂関白記』雑感

1. 『御堂関白記』全現代語訳を終えて
2. 「御堂関白」藤原道長の実像
3. 『御堂関白記』は何故にすごいのか
4. 平安時代理解のあたらしい地平へー古記録の現代語訳は何故に必要かー
5. 『御堂関白記』の世界記憶遺産（「世界の記憶」）登録について
6. 『御堂関白記』利用の変遷と「撰関期古記録データベース」

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel075-533-6860 fax075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行:思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	『御堂関白記』の研究		8,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1957-5
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）				

書店番線印